

ガンバ大阪の経済波及効果

宮 本 勝 浩
郭 進¹⁾
王 秀 芳²⁾

1. はじめに

Jリーグの人気サッカークラブのガンバ大阪は、強くて大阪・関西では非常にファンの多い人気クラブである。しかし、現在万博公園内にあるホームスタジアムの万博記念競技場がやや狭くて老朽化したので、ガンバ大阪はより規模の大きいスタジアムに建て替える計画をたてている。ガンバ大阪は大阪・関西の星であるので、新たな専用スタジアムも遠方に移転するのではなく、吹田市は現在地近辺に建築してほしいと願っている。本報告書では、現在あるスタジアムの近辺、具体的には万博公園内にガンバ大阪の新たな専用スタジアムを建築して、ガンバ大阪が公式戦を行った時の経済波及効果を計算することを目的としている。

計算結果は以下の通りである。

(1) 〈ケース1〉 新しいスタジアムの建設費が150億のケース

初年度に大阪府内で356億3,200万円、吹田市内では109億4,850万の経済波及効果を持つことになる。また、10年間では大阪府内では960億6,600万円、吹田市内では411億6,550万円の経済波及効果をもたらすことが推定された。

(2) 〈ケース2〉 新しいスタジアムの建設費が120億のケース

初年度に大阪府内で301億4,200万円、吹田市内では95億7,600万円の経済波及効果を持つことになる。また、10年間では大阪府内では905億7,600万円、吹田市内では397億9,300万円の経済波及効果をもたらすことが推定された。

1) 大阪府立大学経済学部客員研究員

2) 大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程

2. 新スタジアムの経済波及効果

新しいスタジアムには2種類の建設プランがある。一つは、スタジアムのスタンド席全体を屋根付きにするケースであり、このケースでは150億の建設費が必要であると計画されている。もう一つは、メインスタジアムのみを屋根付きにするケースであり、このケースでは120億の建設費が必要であると計画されている。新しいスタジアムの収容人数は現在では30,000人の計画である。

そして、将来は収容人数を40,000人規模にまで拡大することも考えられている。本報告書では、一応新スタジアムの収容人数は30,000人と仮定する。以下の分析では、新スタジアム建設が大阪府内および吹田市内に及ぼす経済波及効果についてそれぞれのケースを別々に計算することにする。

〈ケース1〉

建設費150億円のケースであり、それをすべて産業連関表の建設業の項目に投入する。分析に用いる産業連関表は「平成12年の大阪府産業連関表」である。計算結果は以下の通りである。

単位：億円、人

項目	生産創出効果	雇用創出効果	粗付加価値創出効果
直接効果と一次波及効果	216.0	1,704	141.94
二次波及効果	58.7	428	38.57
合計	274.7	2,132	180.51

このケースでは、大阪府内に274億7,000万円という大きな経済波及効果をもたらすことが計算された。

〈ケース2〉

建設費120億円のケースであり、ケース1と同様その金額をすべて産業連関表の建設業の項目に投入する。計算結果は以下の通りである。

単位：億円、人

項目	生産創出効果	雇用創出効果	粗付加価値創出効果
直接効果と一次波及効果	172.8	1,263	113.55
二次波及効果	47.0	343	30.86
合計	219.8	1,706	144.41

大阪府内に219億8,000万円の経済波及効果を持つことが計算された。

上記の分析を踏まえて、次に、新スタジアム建設の吹田市に対する経済波及効果を推定する。吹田市内では大きな建設会社が少なく、建設については大都市の企業にかなりの建設投資資金が流れると想定されるので、本報告書では吹田市内での建設の経済波及効果は大阪府内の経済波及効果の1/4程度であると仮定する。その仮定のもとでは、〈ケース1〉では吹田市内の建設の経済波及効果は68億6,750万円、〈ケース2〉では54億9,500万円となる。

〈ケース1〉

単位：億円、人

項 目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	54	426	35.485
二次波及効果	14.675	107	9.6425
合 計	68.675	533	45.1275

〈ケース2〉

単位：億円、人

項 目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	43.2	315.75	28.3875
二次波及効果	11.75	85.75	7.715
合 計	54.95	426.5	36.1025

3. 観客の消費による経済波及効果

(1) 予想観客数

これまでのガンバ大阪の観客数、試合数、スタジアムの収容率は次のとおりである。

1993年から2005年までのスタジアムの収容人数は23,000人である。そして、2006年から一部改装されたことにより、それ以後のスタジアムの収容人数は21,000人となった。そして、1993年から2008年までの年間平均試合数は17試合である。

次に、新しいスタジアムがオープンした時の収容率を想定する。1993年にガンバ大阪がスタートした時の年間の収容率は94%であった。そして、一時期の低迷時を除くと、人気が定着した2006年から2008年までの3年間の平均年間収容率は79%である。これらの値を参考にして、新しいスタジアムがオープンした時の最初の年の収容率は94%、そしてその後10年間の平均収容率は79%であると推定する。そして、今後の試合数は、Jリーグ戦のホームスタジアムの試合だけではなく、ナビスコカップ、天皇杯、さらにアジアチャンピオンズリーグなどの試合数を考慮すれば、年間試合数は20～25試合になると推定されるので、今後は年平均23試合であると仮定する。

年度	総入場者数	平均観客数	平均試合数	収容率
1993	388,286	21,571	18	0.94
1994	492,084	22,367	22	0.97
1995	346,054	13,310	26	0.58
1996	120,058	8,004	15	0.35
1997	135,088	8,443	16	0.37
1998	148,920	8,723	17	0.38
1999	119,934	7,996	15	0.35
2000	146,917	9,794	15	0.43
2001	175,849	11,723	15	0.51
2002	191,429	12,762	15	0.55
2003	153,324	10,222	15	0.44
2004	187,752	12,517	15	0.54
2005	271,416	15,966	17	0.69
2006	276,395	16,259	17	0.77
2007	296,465	17,439	17	0.83
2008	274,169	16,128	17	0.77

その結果、1年目の観客数とその後10年間の観客数の推定値は次のようになる。

(A) 初年度

$$30,000人 \times 0.94 \times 23試合 = 648,600人$$

(B) オープン後10年間

$$30,000人 \times 0.79 \times 23試合 \times 10年間 = 5,451,000人$$

(2) 観客一人当たりの消費額

観客一人当たりの消費額については、三菱UFJリサーチ&コンサルティングとヤフー・バリュー・インサイトによる報告書「2007年スポーツマーケティング基礎調査」の数値を使用する。

単位：円

消費項目	金額
チケット代	3,015
交通費	2,188
飲食費	1,891
グッズ費	602
記念品費	585
合計	8,281

（3）観客の消費支出総額

① 1年目の観客の消費支出総額

単位：円

消費項目	金額
チケット代	1,955,529,000
交通費	1,419,136,800
飲食費	1,226,502,600
グッズ費	390,457,200
記念品費	379,431,000
合計	5,371,056,600

② オープン後10年間の観客の消費支出総額

単位：円

消費項目	金額
チケット代	16,434,765,000
交通費	11,926,788,000
飲食費	10,307,841,000
グッズ費	3,281,502,000
記念品費	3,188,835,000
合計	45,139,731,000

（4）産業連関表への按分方法

消費支出は購入者価格で測ったものであるため、各産業への振り分け額から算出した商業マージンと国内運賃マージンを、さらに商業と運輸業へ再調整する必要があると考えられる。商業マージン表と運賃マージン表は「平成12年大阪府産業連関表」の中に含まれていないので、大阪府の産業別の商業マージン率と国内運賃マージン率は、日本全国とそれぞれ同じであると仮定して試算する。それで、「平成12年日本全国産業連関表（32部門）」から産業別の商業マージン率と国内運賃マージン率を計算して、商業マージンと運輸マージンを産業間で調整した微調整した大阪府産業連関表を以下で用いて分析する。

消費項目	按分産業
チケット代	対事業サービス
交通費	運輸産業
飲食費	対個人サービス
グッズ費	対事業サービス
記念品費	対事業サービス

(5) 観客の消費支出の経済波及効果

平成12年版の微調整した「大阪府産業連関表」を用いて経済波及効果を試算すると、計算結果は以下の通りとなる。なお、ガンバ大阪のファンがチケットを購入したり、飲食をしたりする消費支出は直接効果と呼ばれる。それとは別に、一次波及効果、二次波及効果と呼ばれる経済波及効果の概念がある。一次波及効果とは、例えばガンバ大阪のファンが弁当を購入すると、その代金は直接効果として計算されるが、その弁当の材料である米や惣菜を納入している企業や店も売上げが増える。それらの材料を販売している企業や店の売上げの増加が一次波及効果である。そして、直接効果と一次波及効果に関係する企業や店の売上げが増加することにより、それらの経営者や従業員の所得が増加する。彼らの所得が増加することにより彼らの消費が拡大する。その消費拡大効果を二次波及効果と呼ぶのである。

① 1年目の観客の消費支出の大阪府に及ぼす経済波及効果

【大阪府】

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	65.49	519	43.03
二次波及効果	16.13	118	10.6
合計	81.62	637	53.63

大阪府における経済波及効果の約半分を吹田市における経済波及効果と仮定すると吹田市における観客の消費支出の経済効果は以下のようになる。

【吹田市】

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	32.745	259.5	21.515
二次波及効果	8.065	59	5.3
合計	40.81	318.5	26.815

② オープン後10年間の観客の消費支出による大阪府に及ぼす経済波及効果

【大阪府】

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	550.38	4,362	361.66
二次波及効果	135.58	990	89.09
合計	685.96	5,352	450.75

大阪府における経済波及効果の約半分を吹田市における経済波及効果と仮定すると吹田市における経済効果は以下のようになる。

【吹田市】

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	275.19	2181	180.83
二次波及効果	67.79	495	44.545
合計	342.98	2676	225.375

4. 新スタジアムの建設費と観客の消費支出の総経済波及効果

新しいスタジアムの建設費と観客の消費支出の合計である総経済波及効果は次の表で表わされる。

〈ケース1〉 建設費150億円のケース

① 1年目の大阪府における建設費と観客の消費支出の総経済波及効果

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	281.49	2223	184.97
二次波及効果	74.83	546	49.17
合計	356.32	2769	234.14

② 1年目の吹田市における建設費と観客の消費支出の総経済波及効果

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	86.745	685.5	57
二次波及効果	22.74	166	14.9425
合計	109.485	851.5	71.9425

③ 10年間の大阪府における建設費と観客の消費支出の総経済波及効果

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	766.38	6066	503.6
二次波及効果	194.28	1418	127.66
合計	960.66	7484	631.26

④ 10年間の吹田市における建設費と観客消費支出の総経済波及効果

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	329.19	2607	216.315
二次波及効果	82.465	602	54.1875
合計	411.655	3209	270.5025

〈ケース2〉 建設費120億円のケース

⑤ 1年目の大阪府における建設費と観客の消費支出の総経済波及効果

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	238.29	1782	156.58
二次波及効果	63.13	461	41.46
合計	301.42	2343	198.04

⑥ 1年目の吹田市における建設費と観客の消費支出の総経済波及効果

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	75.945	575.25	49.9025
二次波及効果	19.815	144.75	13.015
合計	95.76	745	62.9175

⑦ 10年間の大阪府における建設費と観客の消費支出の総経済波及効果

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	723.18	5625	475.21
二次波及効果	182.58	1333	119.95
合計	905.76	7058	595.16

⑧ 10年間の吹田市における建設費と観客の消費支出の総経済波及効果

単位：億円、人

項目	生産創出	雇用総創出	粗付加価値創出
直接効果と一次波及効果	318.39	2496.75	209.2175
二次波及効果	79.54	580.75	52.26
合計	397.93	3102.5	261.4775

5. 結論

ガンバ大阪の新しいスタジアムが万博公園内に新設された時の経済波及効果は次のとおりである。

- (1) 建設費が150億の場合の1年目の大阪府内の経済波及効果は、建設の経済波及効果274億7,000万円と観客の消費経済波及効果81億6,200万円の合計、356億3,200万円となる。

吹田市内の経済波及効果は、前述の仮定のもとでは、建設の経済波及効果は68億6,750万

円であり、観客消費の経済波及効果は40億8,100万円となる。その結果、1年目の吹田市内の経済波及効果は109億4,850万円となる。

- (2) 建設費が150億の場合の10年間の大阪府内の経済波及効果は、建設の経済波及効果274億7,000万円と観客の消費経済波及効果685億9,600万円の合計、960億6,600万円となる。

吹田市内での経済波及効果が前述の仮定のもとでは、吹田市内での経済波及効果は、前述の仮定のもとでは建設の経済波及効果は68億6,750万円、観客消費の経済波及効果は342億9,800万円となる。その結果、10年間の吹田市内の経済波及効果は総計411億6,550万円となる。

- (3) 建設費が120億の場合の1年目の大阪府内の経済波及効果は、建設の経済波及効果219億8,000万円と観客の消費経済波及効果81億6,200万円の合計、301億4,200万円となる。

吹田市内での経済波及効果は、前述の仮定のもとでは、建設の経済波及効果は54億9,500万円、観客消費の経済波及効果は40億8,100万円となる。その結果、1年目の吹田市内の経済波及効果は95億7,600万円となる。

- (4) 建設費が120億の場合の10年間の大阪府内の経済波及効果は、建設の経済波及効果219億8,000万円と観客の消費経済波及効果685億9,600万円の合計、905億7,600万円となる。

吹田市内での経済波及効果が前述の仮定のもとでは、吹田市内での経済波及効果は、前述の仮定のもとでは建設の経済波及効果は54億9,500万円、観客消費の経済波及効果は342億9,800万円となる。その結果、10年間の吹田市内の経済波及効果は総計397億9,300万円となる。

※本報告者作成に際し、資料を提供していただいた関係者各位に、改めてここに謝意を表する次第です。

